

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

<項目>

第3章 未病対策の推進

第1節 未病を改善する取組みの推進

とりまとめ担当課：健康増進課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) ライフステージに応じた未病対策（健康増進課）	
ア	子どもの未病対策
→	未就学児指導者向け研修の実施（H30：6回、参加者144人） 小学校教諭用指導者研修の実施（H30：4回、参加者249人）
→	「体カテスト取組リーフレット」の配布（地域の小学校の全児童） 夏休み『みんなで朝ラジ!!』プロジェクトの実施
→	高校生向け健康・未病学習教材の配布（全県立高校144校へ配布）
イ	未病女子対策
→	若い世代を中心とした女性の健康・未病課題改善のためのイベント「かながわ女性の健康・未病フェア」の実施（平成31年3月）
→	かながわ女性の健康・未病サイト「未病女子navi」による情報提供（H30アクセス件数：78,580件）
ウ	働く世代の未病対策
→	世界糖尿病デーに県立歴史博物館におけるブルーライトアップを実施
→	中小企業事業主への健康づくり体制及び健康づくり支援の実施（H30：9件、延べ27件）
→	かながわ健康プラン21 地域・職域連携推進部会の実施（H30：1回） 二次保健医療圏での地域・職域連携推進協議会（圏域）（H30：協議会（部会含）8回）
エ	高齢者の未病対策
	市町村によるフレイルチェック事業の支援
→	フレイルチェック参加者数（H30：延べ1,000人）
オ	認知症未病対策
→	県民向けシンポジウムの開催（H30：参加者数 340人）
→	プロスポーツチームによる、高齢者と子どもが一緒に行う継続的な運動プログラムの実施（H30：参加者数 高齢者21名、子ども19名）
→	県立高校の教員及び生徒を対象とした、認知症のVR（バーチャルリアリティ）体験の実施（H30：参加生徒数 11校1,280名）
(2) 未病改善の取組みを支える環境づくり	
ア	地域における未病改善を進める環境づくり（健康増進課・地域政策課）
→	未病センターの認証（H31.3.31時点：36箇所認証）
→	県西地域において、気軽に「未病を改善する」取組みを実践できる「未病いやしの里の

<p>駅」の登録推進（H30：累計 202 施設）</p> <p>→ 県西地域が「未病の戦略的エリア」であることをアピールする拠点となる未病バレー「ビオトピア」の設置（H30：4月に第1期オープン）</p>
<p>イ 職域における未病改善を進める環境づくり（ヘルスケア）</p> <p>→ 「マイME-BYOカルテ」を利用した企業対抗ウォーキングの開催（H30年度：123事業所、計2,005名参加）</p> <p>→ CHOを設置して健康経営に取り組む企業を「CHO構想推進事業所」として登録（H30年度：累計414事業所（前年度末比252事業所増））</p>
<p>（3）未病に見える化する取組み（ヘルスケア）</p>
<p>→ メタボリスク指標及び生活習慣改善プログラムの構築に向け、市町村が実施する特定健診の受診者に対して将来メタボになるリスクを提示し、行動変容を促す実証を実施。（H30：3市町）</p> <p>→ 未病指標の構築に向け、重点領域ごとの個別指標（メタボリスク指標など）及び総合的指標について議論を行った。（H30：3回）</p>

2 参考指標の推移

指標名	単位	神奈川県内					参考指標を設定した理由	備考
		H30	R 1	R 2	R 3	R 4		

3 課題ごとの進捗状況の評価

（1）ライフステージに応じた未病対策

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	<p>ア 子どもの未病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育所や小学校など、子どもに近い現場の専門職の方に未病について幅広く普及啓発することができた。また、小学生や高校生が自らの健康状態を「自分ごと」化するきっかけを作り、意識変容を促すことができた。
	<p>イ 未病女子対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性を中心とした女性の健康・未病課題及び対処法等についての正しい知識や情報の普及を図ることができた。
	<p>ウ 働く世代の未病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 働く世代の健康づくりを進めるために、生活習慣病に関する普及啓発や中小企業への事業所支援、関係機関と連携し、健康づくりの取組みの検討等を行った。
	<p>エ 高齢者の未病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村の実施したフレイルチェック参加者のうち、2回以上参加したリピーターの75%が「フレイルにならないように気を付けるようになった」とアンケートに回答するなど、意識変容がみられた。

	<p>オ 認知症未病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民向けシンポジウムでは、アンケートの結果、回答者の9割が「認知症への理解が深まった」、「認知症の未病改善を実践したい」としており、参加者の認知症や未病改善に対する理解の促進がみられた。 ・ プロスポーツチームを活用した継続的な運動プログラムでは、複数のメディアで紹介されるなど、プロスポーツチームを活用することで、未病改善の効果的な普及啓発が図られるとともに、参加者の行動変容がみられた。 ・ 高校における認知症のVR体験では、実施後のアンケートにおいて、認知症や未病改善に対する理解の促進がみられた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ライフステージにおいて、未病改善の実践の普及のための理解促進や行動変容に向けた取組みを着実に進めた。参加者の意識や行動変容もみられており、比較的順調に進捗していると評価している。

(2) 未病改善の取組みを支える環境づくり

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	<p>ア 地域における未病改善を進める環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未病改善のきっかけづくりの場となる「未病センター」を認証し、健康支援プログラム等の提供を行うことで、県民が主体的に未病改善に取り組むことのできる環境の整備が進んだ。 ・ 「未病いやしの里の駅」の登録推進により、登録施設数が着実に増加し、未病バレー「ビオトピア」は円滑に運営を開始した。 <p>イ 職域における未病改善を進める環境づくり（ヘルスケア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康経営を実践する企業等が増加し、CHO構想推進事業所登録制度に新たに252事業所を登録した。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未病センターの認証や、「未病いやしの里の駅」の登録施設数が順調に拡大するとともに、未病バレー「ビオトピア」の入場者数は当初目標を上回り、順調に進捗した。また、企業の健康経営の普及拡大も着実に進んでいる。

(3) 未病を見える化する取組み

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未病指標の構築に向けた研究会において、重点領域ごとの個別指標及び総合的指標について議論をした。また、メタボリスク指標及び生活習慣改善プログラムを活用し、市町村が実施する特定健診の受診者に対して将来のメタボになるリスクを提示し、行動変容を促す実証を行う等、未病指標の構築・利用拡大に向けた取組みを着実に進めた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未病を見える化する取組みについては、必要な取組みを進めており、比較的順調に進捗した。

4 総合評価

評価	評価理由
B	各ライフステージに応じた未病改善対策に取り組んでおり、比較的順調に進捗している。未病改善の取組みを支える環境づくりについても、認証・登録企業等が順調に増加しており、企業の健康経営の取組みの普及啓発も着実に進んでいる。また、未病の見える化についても比較的順調に進んでいることから、総合的に、比較的順調に進捗している。